

## 哲学 01

# 何のために管理職になるのか

管理職への道に進むかどうか考えている人から相談されたとき、私がまず確認しているのが「何のために管理職になるのか」です。これはとても重要なテーマです。

**管理職は判断の連続**です。「何のために」という考えや目的がないと、判断がブレてしまいます。その結果、現場の教職員が迷うことにもなりますし、学校運営にも支障をきたします。単に「目立ちたい」「出世したい」「人の上に立ちたい」というような目的では、管理職の仕事は到底うまくいきません。管理職試験でも志望動機を問われます。「子どもたちの自己実現のため」「教職員の成長を支えるため」「教職員や保護者、子どもたちの幸せのため」といった**大きな視点や哲学的な思考で捉える**ことが必要です。

以前、「管理職になること」をゴールとしていた友人がいましたが、実際に管理職になってから、とても苦勞していました。管理職としての「哲学」がなかったために、教育委員会の指針や教職員の意見に右往左往した結果、信頼を失い、疲弊していったのです。管理職になることそのものをゴール（目的）にしてはいけません。

まず、自身の生き方の「**哲学**」を確立していくことです。私は「縁する人たちを幸せにする」という哲学をもって生きてきました。もう少しかみ砕いて言うなら、私生活では「家族や友人を幸せにする」、仕事では「教職員を幸せにする」ことが、私にとっての最上位目的です。この哲学は、「何のために管理職になるのか」に対する私の答えとも重なります。綺麗事と言われるかもしれませんが、私は本気で「縁する人たちの幸せ」を願ってやってきました。休職

を経験してからは、特に強くそう思うようになりました。

人生哲学に基づいて仕事をしていくことは自己実現の体現でもあり、幸福感を得ることにもつながります。教職員による子どもたちへのかかわりが最大の教育環境だと考えているので、私が管理職として実現を目指す教職員の幸せが、そのまま子どもたちの幸せにもつながると思っています。

私には教諭時代の忘れられない体験があります。自分の言うことがすべて正義と言わんばかりの先輩教職員が、生徒の話を丁寧に聞いていた他の同僚に対し、「そのような指導では駄目だ」といじめともとられるような厳しい態度をとっていました。見下すような発言が多く、言い返すこともできない状況でした。当時私は何もできず、ただただ悔しい思いで慰めるだけでした。そのことが原因かどうか定かではありませんが、その同僚は年度末に退職されました。今思い返せば、そんなときに**管理職が「そのようなことはやめなさい」と言うことができれば、状況は変わっていたかもしれません。**

「その人にしかない魅力を見て尊重する」、そんな雰囲気をつくるのは管理職の責務です。それが教職員一人一人の幸せにつながり、子どもたちの幸せにもつながります。こういった管理職としての信念や思いを年度当初の職員会議で宣言しておくことで、多くの教職員が安心感をもてるでしょう。

**「何のために管理職になるのか」と自問することが、管理職への道を進むかどうかを考えるスタートです。**自分の現在地をしっかりと確認し、人間的成長や社会貢献など、さまざまな視点でその「目的」と自分の人生における「哲学」とを照らし合わせ、悔いのない選択を導き出してほしいと思います。